

# 真宗大分

## 僧侶総講習会開かれる

—カウンセリングの大切さを知る—

七月七日、別府別院で僧侶総講習会が開かれました。講師は富田富士也氏(子ども家庭教育フォーラム代表)で、ご自身のカウンセラーとしての経験をもちに、「カウンセリングとは」、「カウンセリング実習」の、二つの講義をいただきました。

講義とはいうものの、ただ座って話を聞くだけのものではなく、全てにわたって、いわば「参加者体験型」の講義で進み、時折参加者が指名されて発言を求められたり、藤田氏から指示された行動をとったり(例えば数人組みになり、一人は目を閉じてゆらゆらとどこかの方向に倒れ掛かる。周りを囲った誰かがその人を



キヤッチして絶対に転ばないようにする。)するなど、一見何かのゲームのように思えますが、その実「カウンセリング」とは形式に拘るのではなく、まず相手の心に寄り添い、信頼関係を築くことが大切だ」という意味を体験し、学びました。

また、近年問題化している「引きこもり」について、現代社会が失ったものの中に「関係性」や「共感性」があると、富田氏は、カウンセリングは相手との関係性をもつことであると教えて下さいました。「関係性」とは、まず自分は相手との共同体であると考え、充分なコミュニケーションを持ち、「生・老・病・死」を含めた「人格」(パーソナリティ)を受け入れ、その人格を決してジャッジしないことであり、無常の世の中を生きる私達は、それぞれ孤独だから、他人とつながる縁を求めていく関係性が大切なのです。

次に「共感性」とは、「母性性」とも言え、自分の価値観

第123号  
創刊 昭和41年8月  
発行所 大分教区基幹運動推進委員会  
〒874-0920  
別府市北浜3丁目6-36  
本願寺別府別院内  
TEL 0977-22-0146

をベースにした「同感」とは異なり、常に相手の立場に立つて感じることでありと教えて下さいました。浄土真宗で古くから伝わる「講」もまた、ひざをつき合わせて語り合い、「共感性を持つ」重要な行事であると知らされます。また、「母性」は女性のみにも備わるものではなく、男女関係なく在るものであり、同時に「父性」も同様に男女を問わない。しかし、母性のないところに父性は育たない。言い換えれば「やさしさが無ければ強さは育たない」といったところでしょう。富田先生は、「必要なのは家族帰帰」とおっしゃっています。

休憩を挟み、続いて「カウンセリング実習」として、参加者同士二人組みのペアを作り(できるだけ面識のない人同士で)、交互に相手の気持ちに寄り添う実習など、僧侶には何かを再認識させられる講習会でした。

今回の講習会で配られた資料の中に、富田氏が書かれた「子どもたちへのメッセージ」という文章がありましたのでご紹介致します。

「死にたい」と言う自分と向き合ってみませんか  
「死にたい」と口にしたことのある人はいると思います  
言われた方は驚いて「えっ、どうしたの」と少し混乱気味にたずねたりします  
それは、ただごとではない言葉だからです  
生命が目の前から消えてしまう驚きです

### 中略

このとき、もしもあなたが最初に「死にたい」と言った人だとしたら、「ごめんなさい。軽い気持ちで言ってしまったの。私が悪かったから、だからあなたも死なないで:」  
と言って、相手の裏切られたという気持ちに近づいていきますか  
それとも

「だから何回も『ごめんなさい』って謝っているでしょう。いつこい人ね。そんなに『死にたい』なら死ねばいいでしょう」と突っぱねますか  
こうなると、なにかお笑いのコントでも見ているような感じになります。が、「死」という言葉はそれほど相手の心を自分につけ、ときに混乱させるものです  
こんな話を聞いたことはありませんか  
「死にたい、死にたい、死ぬ、死にたい、死にたい、死ぬ」と言っている人に限って死な

ないものだ。本当に死ぬ人は簡単にそんな言葉は言わないものだ」  
このように断定はできません。死にたい、と言ってみても誰もふり向いてくれなければ、自殺するかもしれませんだ、この話の意図するところは、「生きている」今、この瞬間を大切にしませんか、ということですよ。

そこで提案いたします  
「死ぬ」という表現でストレー卜に孤独を訴えたいときもあるかもしれませんが、その前に「さみしい」「不安」「心配なことがある」という言い方でつながりを築いていこうではありませんか  
なぜなら、あなたが「死にたい」と思っているそのときに、「生きたい」と思いつつ、本当に避けられない「死」と向き合っている人がいるからです



皇幹運動のページ

「法名の本来化」の視座を考える歴史的ポイント

まりだといわれる。

ポイント1 「姓を捨てた名」から始まった

まず最初に押さえるべきは、法名・戒名(以下は法名で表記)がインドにおいてはなかったということである。出家者はカーストにつながる「姓」を捨て、出家以前の「名前」をそのまま名告っていたのが仏弟子であった。あえて「姓」というならば、「沙門釈子」とのみ号す(『増一阿含経』)と言われるように、お釈迦さまの弟子で、「釈十名前」であったといえるだろう。

ポイント2 「僧侶であることが」

法名という考え方は、実名の外に字・諱を持つ中国の習慣が転じて法名は生まれた。そして、法名は出家者に与えられるものであり、在家者が死んだ時、死者に対して法名を与えるという習慣はインドでも中国でもなかった。また僧侶が皆ひとしく「釈」をもって姓として名告ったのは、東晋時代に道安が、「師は釈迦牟尼仏より尊きはなし、僧侶は皆ひとしく『釈』をもって姓とすべし」と唱えたのが始

ポイント3 「親鸞教団において在家分の門徒には法名はない」

「法名は門徒にも必ず必要なのか」という問題を考える時に重要なのは、親鸞教団においてはどうかであったかということである。親鸞の門弟の法名は、『門侶交名牒』の上などに見ることができ、僧侶分の者が法名を名告っている。では親鸞の教えを受ける御同朋の在家分の者が法名を名告っていたかといえ、そうではなく、実名のみで御同朋であり門徒であった。しかしながら、法名を名告る僧侶分の者と、俗名のままの在家分の者の関係が、平等な関係として「御同朋御同行」であったのが、親鸞教団であったといえよう。

ポイント4 「仏弟子の法名の名告りは、師から与えられるか、自ら名告るかを問わない」

親鸞自身の法名「親鸞」は自ら名告った名前である。そしてもう一つの法名「善信」は自ら法然に申し出て許可を受けた名であり、また吉水門下で当初の名、「綽空」は法然

から与えられたものである。つまり法名は真宗門徒の自覚が根底にあり、法名は師から弟子へ授けると決まったことではなかった。親鸞の弟子の法名は、親鸞が名付けたものもあれば、親鸞自身が自ら名告ったように、門弟自ら名告ったもの、親鸞の門弟となる以前に他の教団で名告っていたものなど、さまざまなパターンがあったと思われる。

ポイント5 「在家分のみで法名を名告り始めた理由―教団内身分の階層化」

本願寺第三代寛如の『改形鈔』に「優婆塞・優婆夷の形体なりながら出家のごとく、しひて法名をもちいる、いわれなき事(『浄土真宗聖典』九二八頁)という項目が出てくる状況が生まれてくる。その背景には、法名を名告る者(僧侶分)と俗名のみで門徒の者(在家分)との平等性が崩れている状況が窺われる。それがさらに、第八代蓮如の時代に本願寺教団において、僧侶以外への御剃刀(後の婦敬式)が始まるのである。蓮如の時代までは、法名の下附は行われることはあっても、在家分への御剃刀は行われていない。

在家分でありながらの御剃刀は蓮如が金宝寺坊守に対して行った坊守御剃刀に始まっている。そして第十一代顕如の代に天満本願寺建立に尽力

した大内源之進の母に対して特別恩賞として、御剃刀をし院号法名を授与している。これが在家御剃刀の実際の始まりである。(『紫雲殿由縁起』)このことからして、在家分の法名の始まりは、「恩賞」として与えられたことに由来すると考えられる。そして江戸の初期、准如にいたっては、本山御影堂においてこれを授けたと『西光寺古記』に記してあり、第十四代寂如にいたっては、「十月行化尾崎別院、度者凡六百二十人」(『本願寺通紀』三)とあり、こうして在家分御剃刀は江戸時代を通じて盛んになっていったことがわかる。(『法名・過去帳』ブックレット基幹運動44、本願寺出版社参照)

ポイント6 「在家分においては江戸時代の法名は死後のもの」

江戸時代の法名はその身分階層化の中での影響もあり盛んに長い法名が求められたが、僧侶分の場合と決定的に違っていたのは、在家分の者は日常生活の中で、法名が名告れなかったことである。

ポイント7 「在家分のみで死後の名として法名を名告り始めた理由―幕府の民衆管理の一環として」

江戸時代の封建身分制社会の下において、幕府・藩は仏教教団を身分制の固定化・強化の一翼を担うものとして位置づけ、各本山そして寺院に

宗門改制度という形で封建制度の維持を図ることに協力を求めた。慶長十八(一六一三)年に仮託して作られた幕府の「邪宗門吟味之事 御条目宗門檀那請合之掟」というものがある。(千葉乗隆『真宗教団の組織と制度』九六頁)その中の一条に、次のようにある。一、死後死骸に剃刀を与へ、戒名授け申す可事。是者宗門寺之住寺之僧死相を見届、邪宗無之段、髓に合点之上にて引導シ、能々吟味遂ぐ可きこと。

現在仏式の葬儀において一〇パーセントと言っているほど亡くなった人に法名がつけられる始まりがここにある。宗教的動機というのではなく、江戸時代の民衆管理の一環として始まったものが現在まで継続しているということである。一八七一(明治四)年、宗門改制度は廃止され、法規にもとづいた檀家制度はなくなつた。しかし、寺院と檀家における習慣としての檀家制度は残り、現在も生前に婦敬式を受け法名を授与されていない門徒の場合、任職が門主の代行として葬儀の際に、婦敬式を行うというように続いてきている。

以上、小武正教 著 『親鸞と差別問題』(法蔵館)所収 「院号法名」を問い直すより 著者の承諾を得て掲載いたしました



# 「お念佛あふれる ほとけの里」

## 各組 めぐり ⑭ 国東中組

国東中組は、「ほとけの里」の国東半島西部国東市、高田市にまたがる、十六カ寺で構成されている組です。過疎の地で小規模な寺院が多く、兼職しながら寺院維持に務めているのが現状です。単体での教化活動がむずかしいために、組での取り組みが重要となっています。スタッフは組長、相談員、国見地区、香々地区各一人ずつの副組長、計四人で各教化団体の担当者や役職経験者や新院さん等に助けられながら、組活動活性化に一致団結して務めています。

### 組活動内容

法中会は年間に五、六回開催しています。活発に発言が飛び交い、いつも夜遅くまでおよび、おかげで国東中組の方向が決定されます。

○坊守会は年二回集まり、総会や親睦を実施して、寺婦、仏婦合同研修会の打ち合わせをします。本年度から新たな研修会へと移行します。  
○組総代会は、年一回開催し

ています。一部は総会行事を行います。二部で研修会を組んでいます。話し合い法座形式での研修に取り組んでいる。総代として多くの研修会に参加し、寺院活動、組活動のお手伝いをお願いしています。  
○仏教壮年会は、評議員会(総会)、仏壮研修会を開催している。組で仏壮を結成して四年目になり、組会長が教区会長を務め、中央や教区で学び、組仏壮活動で活かそうとしているが、組仏壮は今会員不足に苦慮している。裾野を広げ会員増加を図っています。  
○子供会は夏期に開催している。単体での開催がむずかしいので、組で子供会を合同で



子ども会



寺婦仏婦研修会

しよう始まり、今年で二十一回を数えるまで続いています。国見、香々地区交互に会所をかえて組内法中で手作りでの子供会をしました。受付、歌唱指導、仏参、法話、ゲームと担当を分担して、進めていき夕食となります。夕食は、会所の婦人部により、心のこもった食事を本堂で食べる。この縁は貴重な時間です。メニューは毎年カレーライスですが、食後はキャンプファイヤー、花火大会。閉会の仏参で終了です。スタッフも子供たちもバテバテですが、子供たちの仏参する姿、笑顔、元気な声を聞くと思義を感じています。最近スタッフの体力減やマンネリを解消するために教区のスタッフの応援をあおいでいます。

国東中組では、二年に一度

### これからの国東中組

国東中組では、単体での結成がむずかしい教化団体を組んで取り組んでいます。子供会、仏教壮年会とありますが、今度には仏教婦人会を組んで結成するように準備が進んでいます。本年九月に、仏婦結成準備会十月に仏婦発会式の開催を予定しています。

各寺、二、三名の評議員を選出してもらい、ここで役員選出、年間行事の決定をして、広く会員を募集し、多くの人が参加する研修会や親睦会を計画・実施できるように願っています。組スタッフは各団体が自ら活動できる成熟した団体へとなることを夢みています。また今年度より、法中、門信徒と共同企画する組を目指して、年度末に法中、門信徒と共に参加した組会を計画

しています。また、各団体会長さんを交えて年間の反省と来期の取り組みを協議する場を設け、門信徒にも「我が組」という意識が育てばいいと思います。組巡回、同朋運動、全僧研など組活動はまだ多いのですが、組内法中は、兼職しながら、時間をつくり、組活動に理解・協力してくれています。小さな組ですが、よくまとまり、わりと元気な組です。



総代研修会



同朋研修会

# 上原泰行師(第27代大分教区教務所長)を偲びて



新緑に燃える山々、花彩る街角、初夏は初々しい命を感じる。光明無量の世界・阿弥陀様出でます世界の豊かさを感じながら香気に日を送って、それで「君大丈夫か？」元大分教区教務所長・上原泰行師の訃報を受けた。何が起った一案じています。無常の世の真の相を示し貴殿は早お浄土へ：お浄土は光明無量ですかーお便り下されたし。

貴殿は平成九年赴任してすぐ大儀なことを受けあいました。四日市別院大修復事業は川谷輪番さんの発願でしたが本山の人事で退かれました。その人事に御門徒は不信を露わに後の輪番さんの受け入れに難色を示しました。大修復は頓挫したかに思えました。そこに貴殿は輪番として入り

御門徒をまとめました。建設委員会は動き始めました。教区内の巡回は教区のこと、四日市別院のこと、一つでも大儀なことを二つ背負いました。山で養った克服の喜びを以って完成に導きました。土塀が朽ちていましたが修理する経費は有りません、法要は近まします。貴殿は田中誠証氏と、教区内壮年の奉仕を頼りにしました。ようやく別院の修復は成りました。しかし貴殿は落慶法要を目前に退職されました。

在任中平成十二年には「真宗青年の集い全国大会」平成十三年には「第三十三回九州地区組長研修協議会」を担当しました。貴殿の情熱は宗門に光るものでした。まだまだ貴殿は今生でやることを残しました。第一にご報酬として登山・カヌーもそつでしょう。酒は？私に酒は好きか？と聞いた。晩酌はしないと答えた。それじゃ本当に好きではない、好きで晩酌がやめられるか？と言った。(まことだ)

教区会議長 志津里廣由

## およろこび記事

〔任職就任〕

高山 信哉

東国東組 光明寺

(平20・4・24 就任)

井上 知治

院内組 安楽寺

(平20・6・16 就任)

谷山 光存

東国東組 発心寺

(平20・7・29 就任)

## おくやみ

次の方々がご逝去されましたので、生前のご苦勞を偲び謹んで敬弔の意を表します。

○佐之瀬香恵子(平20・5・21)

日田組 福正寺 前坊守

○小浜 宣正(平20・6・3)

院内組 徳應寺 前住職

○日野 忠明(平20・6・30)

宇佐組 妙満寺 衆徒

○大江 正道(平20・7・22)

東国東組 常光寺 前住職

## 法燃と親鸞

### 前進座公演

◆ 11月22日(土) 14:00 開演 会場 宇佐文化会館 ウサノピア大ホール

◆ 12月 5日(金) 14:00 開演 会場 総合文化センター グランシアタ

ご観劇料 5,000円 (両会場とも、全席自由。ただし、会場はどちらかに限定されます)

## 編集後記

十二月八日、アメリカでは「リメンバー パール ハーバー」が声高に叫ばれます。この日、日本では、あまり大きな非戦平和のための行事は行われていないようです。

八月六日の広島、八月九日の長崎では、原爆の被害の大きさが訴えられ「あやまちを繰り返しません」と誓われます。アメリカではこの日、大々的な反戦運動は行われていないようです。

いずれも「あやまちを繰り返さないため」「戦争のない平和な社会の実現のため」らしいのですが、被害の日に大きな行事をし、加害の日には大きな行事がないという現実を見ると、我々の被害者意識の強さを再認識させられます。

「二度と戦争を起こさない」ためならば加害の日こそ、大いに反省しなければならぬはず。本派の千鳥ヶ淵の法要は被害者の振りをして加害者になった日に行われます。その意義を改めて考えてみたい九月を迎えました。